

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
グローバル展開プログラム（研究テーマ設定型研究テーマ）
評価用研究成果報告書

課題		グローバル社会における排他主義とデモクラシーに関する総合的研究			
研究テーマ名		グローバル社会におけるデモクラシーと国民史・集合的記憶の機能に関する学際的研究			
研究代表者	所属機関	関西学院大学			
	部局	文学部			
	役職	教授	氏名	橋本 伸也	
委託研究費		単位：千円			
平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 令和元年度		
2,210.0	20,800.0	18,886.4	11,154.0		

1. 研究の概要

研究目的、研究内容、成果や波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

研究目的

研究テーマ「グローバル社会におけるデモクラシーと国民史・集合的記憶の機能に関する学際的研究」は、グローバル化の下で強化されるアイデンティティ政治と、それに起因するナショナリズムの復権や排外主義的態度の激化に際して「国民史」と「集合的記憶」の果たす機能を解明し、またナショナリズムとデモクラシーの複雑な関係をとまげずすることで、紛争回避に資する歴史叙述と集合的記憶のあり方を提起することを目的としてきた。その際に、東アジアと東ヨーロッパにおける問題状況の類似性・対称性に注目しつつ、アジアとヨーロッパの経験の接続と比較に意を払い、そこからさらに世界規模での「歴史と記憶の政治化と紛争化」の構図を見通すことをめざしている。

研究内容と概要

ドイツ、ポーランド、韓国、日本の4つの研究機関を中心に国際研究ネットワークの形成を図り、年次国際会議や各種セミナー、国際学会のパネル、提携機関での若手研究者セミナーなどを行ってきた。取り上げたテーマは、境界線（国境）、歴史記述における「時間」の問題、国民的アイデンティティ形成と記憶、シティズンシップと記憶、いわゆる「記憶法」、植民地主義と歴史記述、遠い過去と歴史・記憶紛争、革命・体制転換と過去の書き換え、ホピュリズム時代の民主主義と歴史など多岐にわたり、検討対象の国・地域は日本、中国、韓国・北朝鮮、インド、イラン、カフカース、中央アジア、ポーランド、バルト諸国、フィンランド、ドイツ、オーストリア、イタリア、ハンガリー、ルーマニア、ベルギー、スペイン、欧州連合に及び、今後、南米も含めて検討を進める予定である。

成果と波及効果等

本課題の前提となったプロジェクトから継承して『せめぎあう中東欧・ロシアの歴史認識問題』、『紛争化させられる過去』『創造された「故郷」』を出版したのに加え、国際会議の報告等に基づき Stefan Berger & Nobuya Hashimoto (eds), *Borders in East and West: Transnational and Comparative Perspectives*, Berghahn Books, (forthcoming) や雑誌等での公刊準備を進めている。